

保険薬局における外来がん薬物治療患者へのアピアランスケア

下川 友香理

総合メディカル株式会社 そうごう薬局天神中央店

そうごう薬局天神中央店（以下、当薬局）では、2012年より患者担当制を導入し、がんに関する専門知識をもった薬剤師ががん患者を対応している。がん治療中の患者に対して、「患者にとって最適な治療の効果を最大限に引き出し、副作用を最小限に抑えることで治療の継続を支援すること」を目標としてケアを行っている。

当薬局では、月に約300名のがん患者が来局する。薬剤師間で差が生じないように、標準的な応対手順である「外来がん薬物治療患者における保険薬局クリニカルパス」を作成し運用してきた。

運用していく中で、アピアランスに関する事項を要因とした、アドヒアランス不良、治療の拒否・中断、悩みを訴える患者を多く経験する。保険薬局で対応するがん患者は入院時とは異なり、日常生活に身を置きながら治療を続けている。がん患者が生活者としてのQOLを低下させることなく治療継続を可能にするために、アピアランスに関する相談を受け支援することが重要であると考えられるようになった。

当薬局では、アピアランスに関する相談事項の中でも頻度が高い皮膚障害（爪障害・色素沈着など）・脱毛に関して、積極的に関わるための知識習得や取り組みを行っている。爪囲炎については、主応需先病院と連携し、病院薬剤師と共同企画した研修会において、がん看護専門看護師による爪囲炎に関する知識やテーピング方法を学んだ。色素沈着で悩んでいる患者向けに、体験型のカバーメイク講座を開催した。脱毛で悩む患者へは、個々の患者の治療内容や状態にあわせ、脱毛時の注意事項の指導、ウィッグの紹介やアドバイスをこなしている。

しかし、このような技術的な支援だけでは、満足を得られない場合も多々あった。さらに患者の話を傾聴し、気持ちを押し量ることによって、心の奥にあるニーズを引き出し各々に対処することで、患者の笑顔を得られることがわかってきた。

生活者であるがん患者と対応する際に、どのようなことに着目し、ニーズを引き出しているか、具体的にどのようなアドバイスをしているか、事例をあげながらご紹介したい。